

「社会に貢献したい」
看護学校で入学式

南あわじ

南あわじ市広田広田の平成淡路看護専門学校で6日、入学式があり、新入生40人が看護師を目指し、学生生活のスタートを切った。

新型コロナウイルス感染症対策として、出席者は新入生と教職員、在校生代表に絞り、保護者向けに式典の様子をライブ配信した。



北河校長に宣誓文を手渡す松本さん（中央）（南あわじ市で）

北河宏之校長は「高齢化が加速し、看護の必要性は増していく。役に立つんだという気持ちを持って学んでほしい」とあいさつ。新入生を代表し、洲本市大野、松本桃子さん（18）が「地域のニーズに応えられるよう、全力を尽くす」と宣誓した。

松本さんは小学生の頃、約2か月間入院した経験があり、この時、看護師が寄り添って不安を和らげてくれたことが、志望のきっかけになったという。松本さんは「18歳で成人になったので、大人の自覚を持ち、社会に貢献していきたい」と気持ちを引き締めていた。